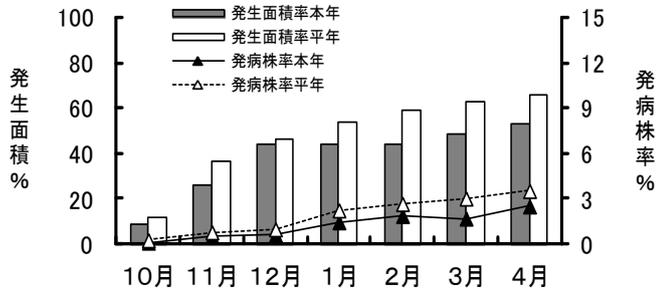


平成25年5月2日

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月) 野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

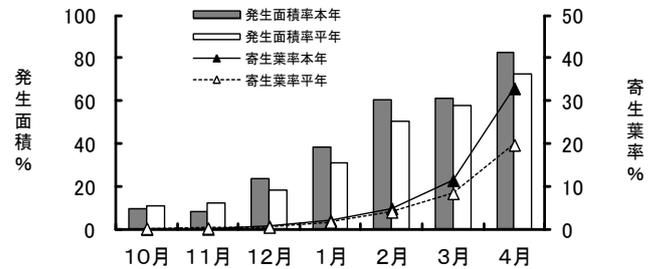
黄化えそ病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)における黄化えそ病の発生推移

黄化えそ病は平年並の発生となっています。今後は気温も上昇し、媒介虫のミナミキイロアザミウマの増加が懸念されます。発病株は伝染源となることから、できるだけ除去し、ミナミキイロアザミウマの防除に努めてください。

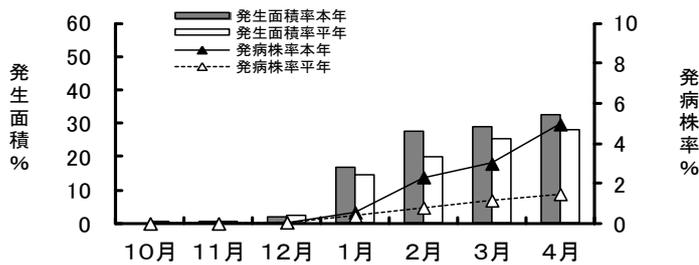
ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

ミナミキイロアザミウマは、平年並の発生となっていますが、気温上昇とともに寄生密度が高くなってきました。生長点部にいる場合は見つけにくく、薬剤もかかりにくいことや、密度が高くなると防除が困難となるので、初期防除の徹底及び丁寧な散布を心がけてください。

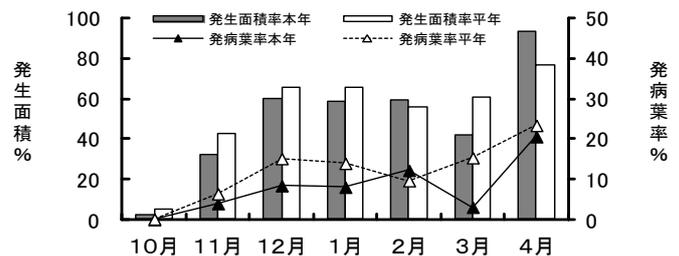
つる枯病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるつる枯病の発生推移

つる枯病は、発生面積は平年並の発生ですが、ほ場によっては発生程度の高い発生が見られます。今後は、やや多発生で推移すると思われるので、防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

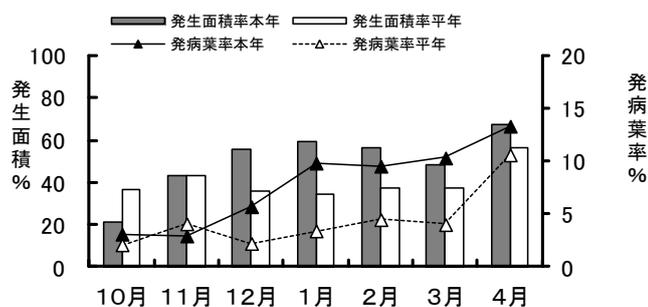
べと病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるべと病の発生推移

べと病は平年並の発生となっています。今後も、平年を超えるような大きな増加はないと思われますが、蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

うどんこ病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

うどんこ病は、発生面積は全体的に平年並の発生となっていますが、発病の程度は、今園芸年度は平年よりやや高めで推移しています。

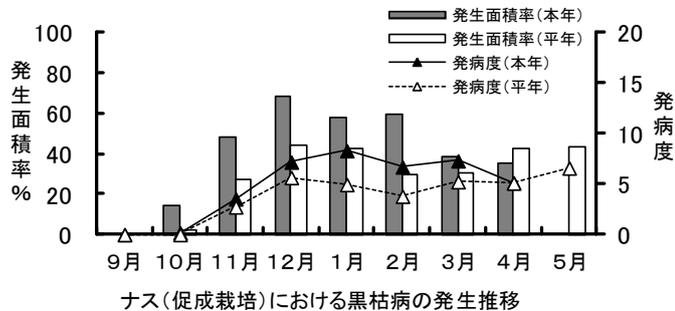
今後は、成り疲れによる草勢低下や気温上昇にともなう高温乾燥などにより病勢が進展する場合があります。本病は、蔓延後の薬剤散布による防除が困難となりますので、発見した場合は、できるだけ早めに防除に取り組んでください。

平成25年5月2日

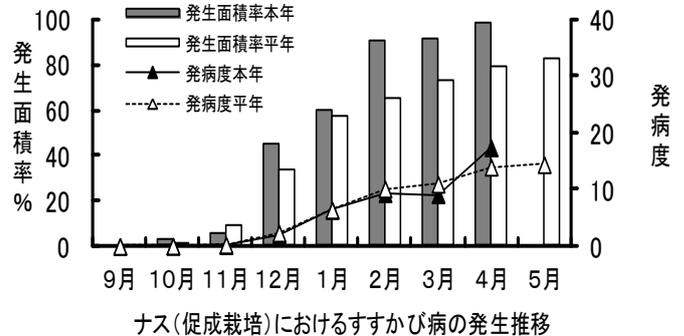
高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月)
野菜類ダイジェスト版

● 促成ナス(東部・中央部・西部)

黒枯病 発生量: 平年並

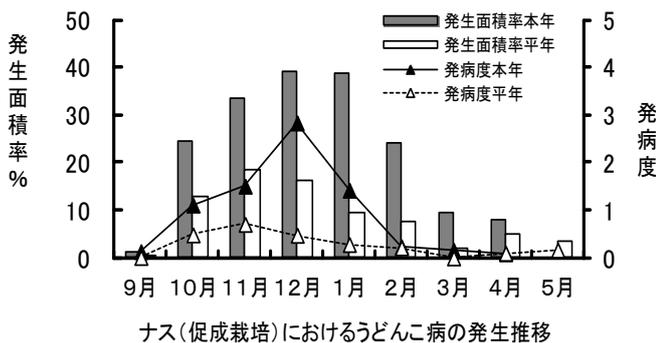


すすかび病 発生量: 多

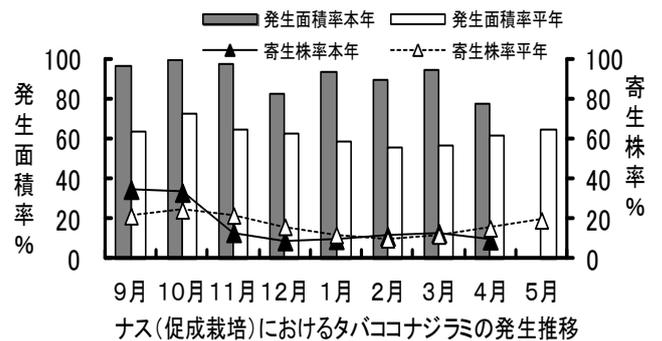


黒枯病は県全域で平年並の発生で、発生程度は先月よりやや低くなっています。すすかび病は発生程度は平年並ですが発生面積が平年に比べ高くなっています。向こう1ヶ月予報では、病勢を助長する要因は少ないですが、両病害ともに蔓延すると防除困難となるので初期防除に努めてください。また、急激な温湿度及び肥培管理は草勢低下を招き、病勢を進展させるので避けましょう。

うどんこ病 発生量: やや多



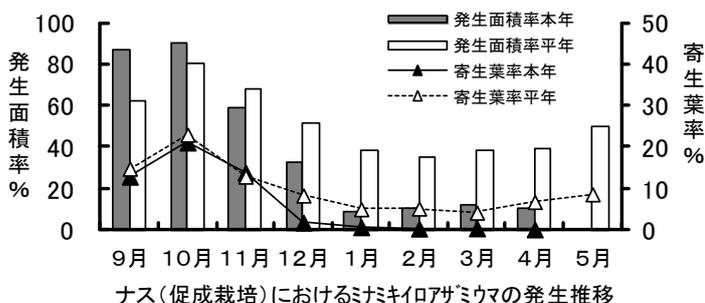
タバココナジラミ 発生量: 平年並



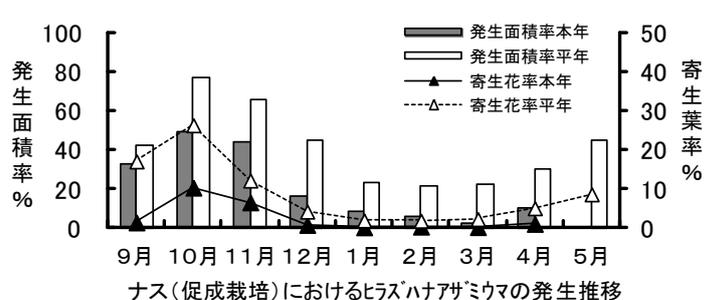
うどんこ病は先月より発生面積はやや減少していますが、平年に比べるとやや多めの発生です。発病の程度は低く抑えられています。ハウス内の温度上昇に伴って病勢を助長することがないように、適度な温湿度管理と草勢の維持に努めてください。

タバココナジラミは、県中央部でやや多めの発生ですが、発生の程度は低く抑えられています。天敵導入ハウスで発生が多くなる場合には、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除などが必要な場合があります。

ミナキイロアザミウマ 発生量: 少



ヒラズハナアザミウマ 発生量: 少



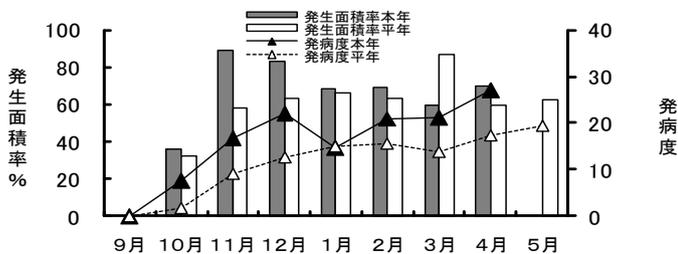
アザミウマ類は先月に引き続き、発生面積・程度ともに平年より少発生となりました。主なナス産地である県東部を中心に、天敵の定着により寄生密度を低く抑えています。しかし、ミナキイロアザミウマが発生している場合は、ハウス内の温度上昇に伴って果実被害の増加が懸念されます。薬剤防除にあたっては、感受性低下を防ぐために同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避け、丁寧な散布を心がけてください。

平成25年5月2日

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月)
野菜類ダイジェスト版

● 促成ピーマン・シシトウ(東部・中央部・中西部)

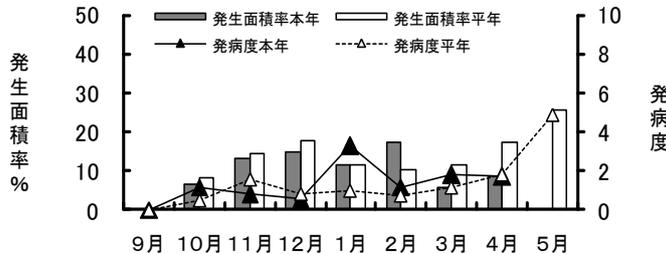
うどんこ病 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

全般的に平年並の発生となっていますが、気温上昇に伴いハウス内の乾燥によりやや発生程度が高くなっています。今後も現状の発生状況推移すると予想されます。硫黄くん煙器を設置している場合は、状況に応じて稼働時間を調節しましょう。

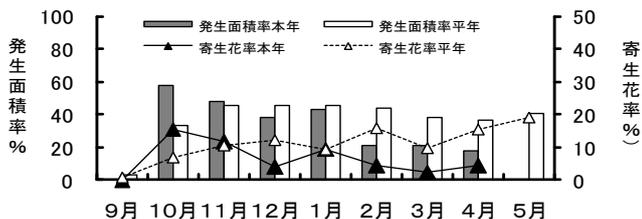
黒枯病 発生量: 少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

全般的に少発生傾向で推移しています。加温器の稼働が終了し、天候や草勢の低下により急激に発生することがあるので、予防散布及び初期防除に努めてください。なお、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

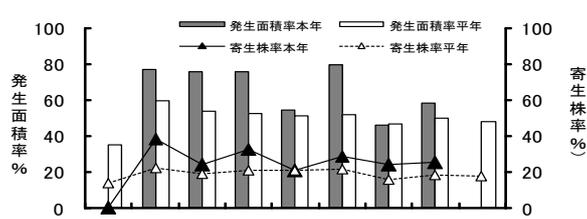
ミナキイロアザミウマ 発生量: 少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナキイロアザミウマの発生推移

全般的には少発生となっています。気温の上昇に従い、急に寄生密度が高くなりやすいので、天敵の状況と合わせて注意してください。薬剤散布を行う場合には、薬剤のローテーションおよび天敵への影響を十分考慮して使用薬剤を選定してください。

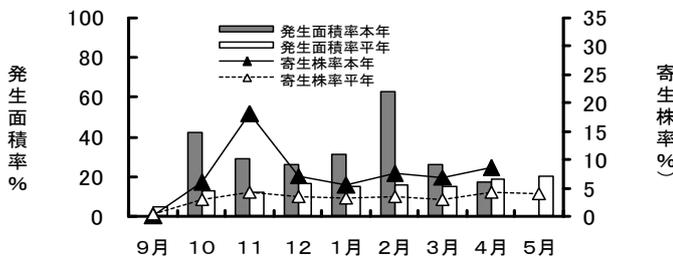
タバココナジラミ 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

全般的には平年並みの発生です。スワルスキーカブリダニが定着しているハウスでは、コナジラミの成虫が低密度で見られる程度なら、問題とはならないと考えます。薬剤防除を行う場合には、天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

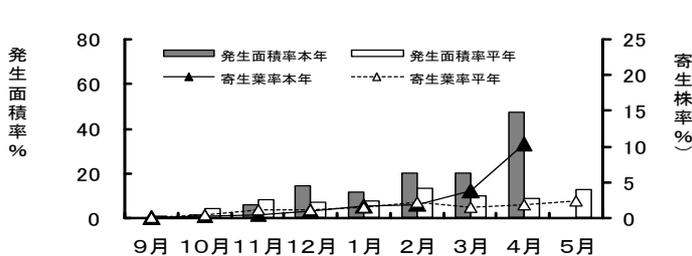
アブラムシ類 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

発生面積は全般的に平年並の発生ですが、寄生密度はやや高めで推移しています。低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、ヒゲナガアブラムシ類の発生に注意しましょう。発生の際は天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

ハダニ類 発生量: 多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

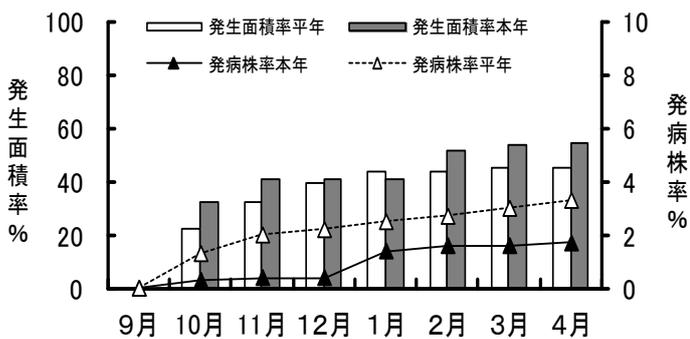
県全域で多発傾向となっており、寄生株率も4月に高くなりました。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。また、防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

平成25年5月2日

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月)
野菜類ダイジェスト版

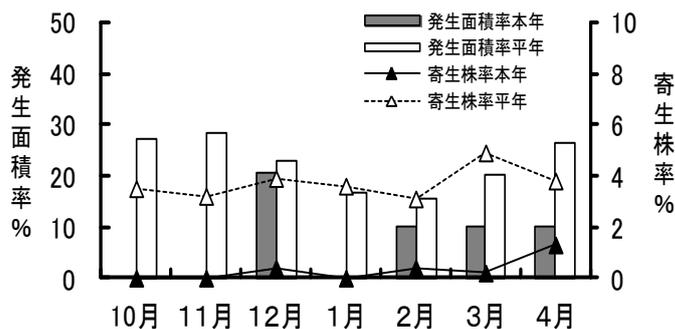
● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

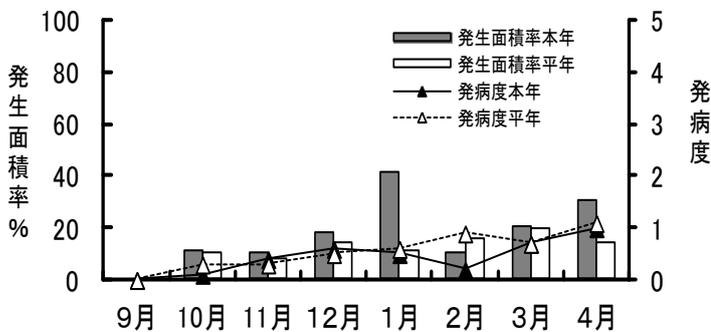
タバココナジラミ 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

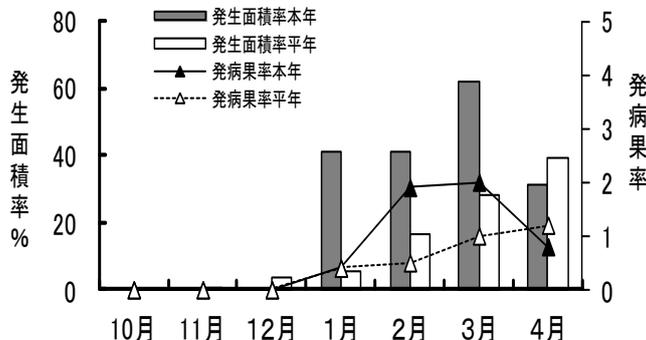
黄化葉巻病の発生面積は平年並に推移しています。媒介虫のタバココナジラミの発生面積は少ないですが、気温の上昇に伴い野外からの飛び込みが多くなりますので、施設内での増殖にご注意ください。

すすかび病 発生量: 多



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

灰色かび病 発生量: やや少



トマト(促成栽培)における灰色かび病の発生推移

すすかび病は平年に比べ多発生となっています。灰色かび病は先月から減少し、やや少発生と発生は落ち着きました。向こう1ヶ月予報では、天気は平年に比べ晴れの日が多いと見込まれ、上記のような病害が急激に伸展することはないと思われませんが、多湿条件が多発の要因となることから、換気を十分に行い、適正な温湿度管理に留意してください。

